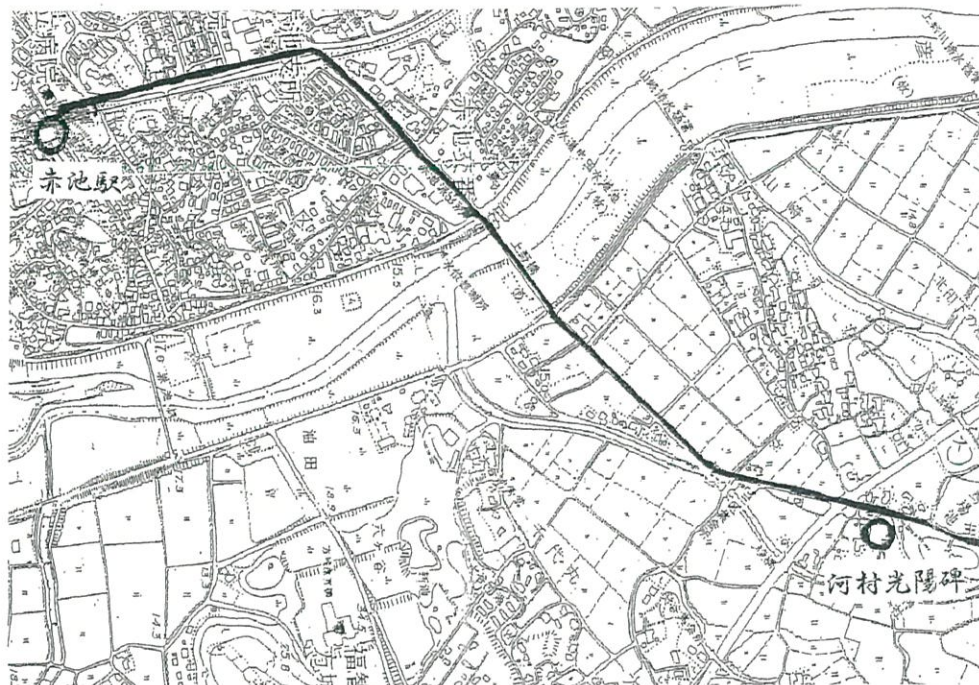


へいちくウォーク

第17回 赤池駅～赤池駅 平成27年12月20日

河村光陽碑—原田町の道標—上野焼陶芸館—興国寺



赤池駅

明治26年(1893)2月、筑豊興業鉄道の直方—金田間が開通し、このとき開業した古い駅。付近には炭鉱が多く、引込み線で当駅に石炭が運び込まれて出荷された。

河村光陽の碑 (福智神社下宮境内)

作曲家 河村光陽は明治35年(1902)上野で生まれた。上野尋常小学校を経て小倉師範学校に学び、卒業後、音楽家を志して上京。「日本の子どもにふさわしい良い歌を」の信念のもとに作曲した作品が、昭和5年以降、NHK「子どもの時間」で放送され、童謡作曲家 河村光陽の曲が世に出ることになった。代表作には「かもめの水兵さん」、「赤い帽子 白い帽子」、「なかよしこみち」、「りんごのひとりごと」などがある。

原田町の道標

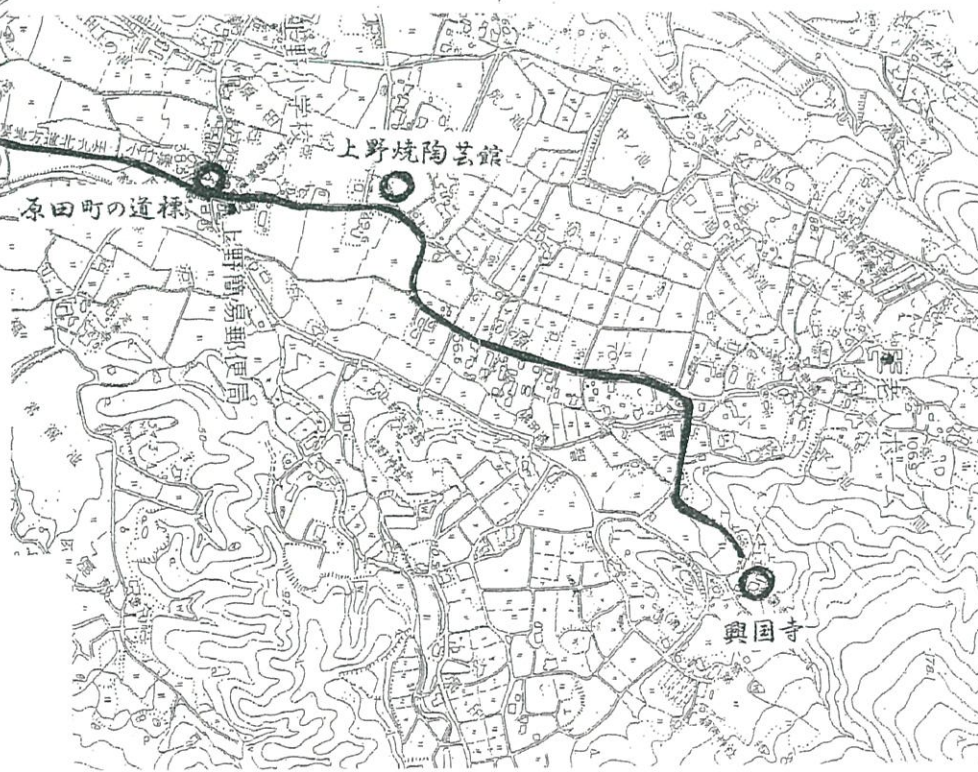
原田町の交差点に大正3年に建てられた道標がある。福智山麓を曲がりくねって走る古い道が、豊前国の香春と筑前国の直方を結ぶ重要な道だったことがわかる。

上野焼

遠州好みの七窯の一つとして知られる。豊前細川藩の御用窯として1602年(慶長7)以後に興った窯で、朝鮮から渡来した陶工尊権(後に上野喜蔵高国と改名)によって開窯されたと伝えられる。1632年(寛永9)細川2代藩主忠利が熊本に転封されると、上野喜蔵は熊本県八代郡高田郷に移住して八代焼(高田焼)を開いた。上野では上野喜蔵の分派である十時家、渡家、吉田家の3氏が窯主となって焼き続けられた。

興国寺

福智町赤池・上野にある曹洞宗の寺。山号は天目山。8世紀初頭に福智権現の神宮寺として開かれ、福智寺と号した。のち1326年(嘉暦元)元晦が堂宇を再建し、天見山覚禅寺(臨済宗)と改めた。1340年(暦応3)には足利直義より豊前国安国寺に定められた。その後、寺運も次第に衰微したが、1544年(天文13)周防の大内義隆の計らいで長門深川の大寧寺の住持助翁永扶禅師によって復興され、福智山天目禅寺から天目山興国寺と改め、以後、曹洞宗の大寧寺末となる。中世のおもかげをしのばせる境内には本堂、観音堂、山門などがある。



次回1月17日(日)は午前10時、赤池駅集合・出発、中泉駅まで歩きます。